

2023年総合生活改善の取り組みについての談話

1. メーカー一部会主要12組合の回答状況（午後2時現在）

<月例賃金>

- 各組合の要求に対するこだわりにより、全ての組合で満額の回答を引き出すことができた。この結果は、激化する競争環境の中で人材確保に向けた取り組みを進めていくことや、物価上昇から生活を守ることによって、自社及び自動車産業の魅力を向上していく必要があることについて労使の認識が一致したことであり、大変意義のある結果と受け止める。

<年間一時金>

- 産業の変革期やコロナ禍、部品調達リスクなど、自社及び産業を取り巻く厳しい状況に対し、稼働対応や新たな働き方をはじめ様々な対応を行ってきた組合員の努力・頑張り・成果に報いる回答を引き出すべく、各組合が粘り強く最後の最後まで取り組んだ結果と受け止める。

<働き方に関する取り組み>

- 産業の変革期やコロナ禍がもたらした新たな時代の働き方を更に前進させるべく、全ての職場における働き方の改善や多様な働き方の実現に繋がる回答を引き出すべく、積極的な論議が行われ職場課題の解決に向けた取り組みを加速させることができた。

<非正規雇用で働く仲間に関する取り組み>

- 非正規雇用で働く仲間に対しても、一般組合員同等の回答を引き出しており、目指すべき賃金水準の実現や、足下の物価上昇を踏まえた賃金等の処遇改善に繋げることができた。

<価格転嫁などの企業間取引に関する取り組み>

- 価格転嫁に応じるための原資の確保や、具体的な取り組みに結び付けるために何ができるのか論議が行われ、グループ全体の競争力の引き上げや魅力向上に向けた取り組み、更にはグループ全体の課題についても労使で共有を図るなど、サプライチェーン全体の発展に向けた取り組みが進められている。

2. 現時点での受け止め

- 取り巻く環境が不透明な難しい交渉環境の中で、各組合が目指すべき賃金水準の実現や物価上昇から生活を、実質賃金の低下から労働の価値を守るため、粘り強く交渉を進めた結果、例年になく成果を得た。既にこの流れは車体・部品部門の主要組合にも広がりを見せており、更に産業全体にも波及させていくことが、何より肝要なことであると考えている。
- 今次交渉の中で、各メーカー労使が価格転嫁などの企業間取引に関する取り組みの必要性和促進に向けた論議を行ったことは、大変意義深いものであった。その論議内容を、各労連が中小組合に迅速に展開しており、今後の中小組合の交渉にも必ず繋がっていくものと確信をしている。
- これから本格化していく中小組合の交渉においては、今回、メーカーを中心とした先行組合が導いた結果と価格転嫁などの充実した論議内容を土台として、徹底した論議を進め回答を引き出していく。そのことが自動車産業のみならず社会全体の労働条件の向上に繋がっていくことを期待している。
- 結びに、本年の取り組みが転換期となり、次年度以降も持続的に賃金が上がる社会の実現を目指し、労働組合としての役割を果たして参りたいと考えている。

以上